

絵

2012年の表紙

村上健

江ノ島電鉄

和田塚駅

明治35年、江之島電氣鐵道として藤沢一 片瀬間開通。通称「江ノ電」。すべての車両 編成において、2両1組の連接車で、これを 単編成もしくは2編成をつなげた4両編成 (乗連)で運行している。軌道時代の名残か ら最新車両でも中央運転台方式を採用。

東京から1時間弱にあって、単線ローカル 線の雰囲気を満喫でき、沿線は明るい湘南、 古都鎌倉の両方を味わえる。和田塚駅は鎌倉 から一駅、由比ヶ浜との間にある。日中は駅 員が常駐しているが、夕方以降は無人駅。下 車の際には、車掌に切符を渡す。



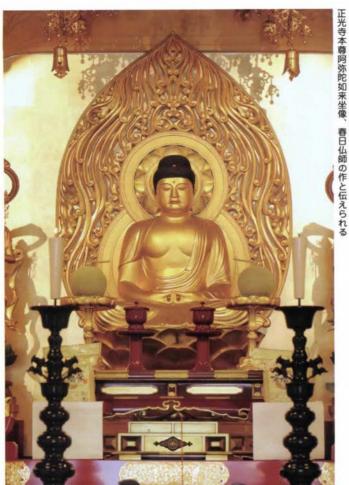


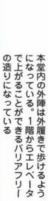
正 新羽岩淵

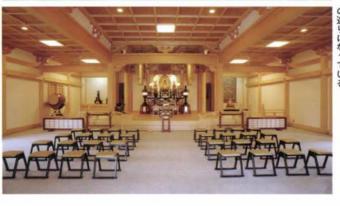
光



平成24年4月22日に落慶式を迎えた正光寺本堂。半地下の客殿の上に 木造の本堂が聳えている。住職就任 4年目で立派な伽藍を建立した正光 寺第29世高橋寿光住職



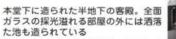






伝頼朝公守り本尊の正観音像を祀 る新築の観音堂に、かつての十二 支堂に祀っていた8体の菩薩を修 復彩色し安置している







JR赤羽駅まではおよそ10分時、10分には徒歩2分の距離。ちなみに時では後の赤羽岩淵駅。正光

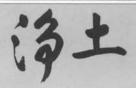






正光寺のシンボルとなっている世継観音菩薩像。 上が明治43年4月に「世継大観音造像二十年記念 尊影」と記された記念写真で、2000枚を信徒諸 氏に授与した裏書がある。左は昭和の頃の写真で 左の建物が観音堂だが、この頃は本堂として使わ れていた。下が現在の観音様





2012/5月号 目 次

カラーグラビア寺院紀行 赤羽岩淵 正光寺写真=タカオカ邦彦	1
浄土アーカイブス●誌上ライブラリ 座談会 法然上人を偲んで 第二回	
武田泰淳 佐藤密雄 仁戸田六三郎 司会·宮林昭彦	6
寺院紀行 赤羽岩淵 正光寺真山 剛	14
会いたい人 奥田瑛二さん③ 関 容子	22
響流十方袖山榮輝	30
極楽に帰った法然上人石丸晶子	34
連載小説 渡辺海旭前田和男	42
マンガ さっちゃんはネッかまちよしろう	49
誌上句会	50
編集後記	52

表紙裏・ 駅をめぐる点景 村上 健 背表紙裏・絵図に見る法然上人



表紙題字=中村康隆元浄土門主 アートディレクション=近藤十四郎 協力=迦陵頻伽舎

浄土アーカイブス

を田い ところ●上野池の端「鉢ノ樹」とき●昭和三十六年一月二十五日 座談会

第二回

≫ 誌上ライブラリー [1961年3月号 『本誌七五○年遠忌記念号』 より]

本 界的ヒューマニズムの宗教一の宗教改革者としての法然と西洋 の場合との 対

異なると思うのですが、 される場合があります。 けれども、司会者の方からのお名指しですので申しあげますと、僕はね、 きものだし、実はあると思うのです。 ケしますけれども、 H それ 本 の宗教改革者として、よく法然上人があげられ、 は、まあ、 洋の東西を問わずですね、信心ごころというものは、 その辺、このたび外遊されていかがでしょうか、 もちろん、洋の東西ということで、 佐藤先生も私よりずっと深く、広くお感じになっ 地理 西洋における宗教改革と対 空的条件、 やつ たと思うんです 仁戸田先生。 話が少々ピンボ 事情などで色 ば りあるべ

間 というものを、 まいう軟派のビート族が、ミラノで懺悔して、百八十度かわって敬虔な信者となった、 いうようなことですね。 マチェアの って居るものの一人なんです。これを、また違ういい方で申しますと、 したですね。 ことは私には分りません。測定してみませんがね。だけど、先程、佐 向って進むのである。 法然上人の場合と、 信心も、 仏教に転換された、ということですね。これ 本当の仏教は法然上人からはじまったんだ、という意味 罪深い罪というものを、 切り離したというところにある、と仰言いましたが、私も兼ねがねそう思 こん。測定してみませんがね。だけど、先程、佐藤先生が仰言られま西洋の場合を比較してみますと、誰れと波長が合うかというような これは、 悪にも強いかわりに善にも強いといったようなことから、 キリスト教でいえば天国でしょうが、丁度、 ひとたび回向すれば、 は、 立ちどころに人間は浄土の キリスト教でい が、 プロの仏教 加持祈祷 うなら そういった が、 14

ようなことのおこったのは、 日本も中世ですし、 西洋も中世なんですね。そこに何か御 因

縁があるんじゃないかという気が致します。

とみ教えは、語り足りないんじゃないかという言葉は、ぐっと私にもきましてね、本当に まあ、 いうなれば、先程、武田先生も仰言いましたように、まだまだ法然上人の御人格

そうだと思うんですよ。

と思うんです。つまり、私流に申しますと、ヒューマニズムの上に仏教というものを新し 結局私は、日本の仏教が、ほんとうの人間の仏教をつくったのは、法然上人がはじまりだ れは、キリスト教が、もっと深まったアウグスチヌスの原罪説と相通ずるものであって、 の主張というものは、 それあそこへ行け、といったようなサークルで仏教があった。ところが選択集の念仏為先 それというのはですね。この限られた人達に、将軍が病気になった、それ呼んでこい 最高最善の法を、最低最悪の衆生に及ぼしたということですね。こ

にえだ ろくさぶろう

く置き直した。

加持祈祷とか、印をむすぶとか、護摩を焚くとか、色々の手だてがありま

ちょっと遠いんじゃないか、と思うんです。かたがた現代といな人にだけ適応するもので、これは、ヒューマニズムからは、すが、これは、下品下生の衆生には適応できないことで、特別

仁戸田六三郎

907年

1981年

等々。 等々。 等々。 等々。 等々。 等々。 第一本人の宗教意識の本質」 は、「要子では、「悪の研究・序説」「復活について」「神々と 集」「悪の研究・序説」「復活について」「神々と 宗教哲学。著書に「仁戸田六三郎宗教哲学論 早稲田大学教授 文学博士

ですね。ですから、この御遠忌に際しまして、私どもは、東洋室の泊りのくだりなどは、もっとも現代的じゃないかと思うんことにそういう例だけ頭に先に来るんで恐縮ですけれど、あのあれも人の子樽ひろい、というわけですね。まあ、私ども、う時代はヒューマニズムの時代でありますしね。

智)、国訳『薩婆多毘尼毘婆沙」、『分別論上』、 大正大学教授 大著『原始仏教教団の研究』、『無量寿経講義』 「論事」、「分別論下」、「仏祖統記」(上・中・下)、 「論事覚音註」(カターヴァッツ・共著佐藤良 大乗戒」、『仏教教団の成立と展開」、「 語による着実なる研究を進め 901年生、 941年 文学博 2000年遷化。 法然 司会 慧の三学のうち、 行けという気がするのでありす。 ーマニズムの宗教であり、 (鎌倉大仏) を超えまして、ジェット機的国際の路線において、 の仏教は民衆的在家道のおしえである 教団もおなじように力を充分発揮したいものです。 ま、 梵語、 1937年 ヒュ 「律蔵」 70 年 戒学の一つももたず、むろん、戒定慧の三学という仏教の本格的な修行 ーマニズムというのがあったけれども、 信仰である。 さまは、只拝んだ人よりは功徳があるには違いないが、教理上 とは、念仏の方は在家の仏教、法然上人が聖道門とよんだもの 半僧になったといわれますが、七百五十年のちの今、いえるこ ということも考えねばならないが、親鸞聖人は結婚して、半俗 はともあれ、実際上は、それと同じだと思うんですが、出家は は出家の仏教ということになるんじゃないか、 ます。これは、法然上人の時代の坊さん達が、何をしていたか、 う修行する仏教が聖道門、それから念仏の法は浄土門といわれ の道は、我々は通ることができないから、念仏往生する、 おそらく、 カソリックにしたところで、あの童貞さまや処女 浄土宗義の上からいえば、浄土宗以外の、そうい 従って、どんと来いどんと来い、 法然上人の仏教は、国際的なヒュ 私は、 法然上人の仏教 と思うんです。 又、どんと行け

性欲を中心とした現世の欲を断っているんだ。そのほかに

れら南方の仏教信者は、決して出家と同じ処へ功徳をうけるのじゃないんです。 修行者に供養するから、供養した仏教徒は現在よりも、良いところへ生れるというが、 来世の欲 も断っているんだ。現世の欲も捨て、来世の欲も捨てるような犠牲を払っていく

指導者も信ずるものも一応同じような幸福なり、功徳をうける、ということになる。 に来たものは何かというと、 教からいえば、もう一段と違ったものである。そして、宗教というものが、一番高い度合 って、これは、仏教のなかからいっても在家の仏教、在家道の仏数であって、 仏になるとかならんとかはともあれ、当面の目的は、いいところへ生まれるというのであ 家の先導者であって、今日の如きは現世の欲望も何もすてておらない。これは、出家も在 だから、浄土教には、 ところが、浄土教というのは、そこに出家も在家もないんであって、出家というのは在 指導者、先達もそれに導かれる同朋も同じように極楽へ生まれる。極楽へ生まれて、 特別の修行というものはないんだ。在家の生活のなかに求められ 特別の修行をしているものだけが、受けるものではなくて、 出家道の仏

るものだと思うんです。

立したのであり、 ま、仁戸田先生がヒューマニズムと仰言ったが、他面、 七百五十年御遠忌の機会にもう一度、 この御遠忌が浄土教の新出発点となれば幸いと存じます。 在家道 在家道の仏教というものが確 の宗教、 民衆の 仏教という

そうですよ、人間の出来ないことをいっているんですよ。

出家というものは家出でしょう。

法然の人間平等論

―最大の難事業を最もやさしい方法に於て発見―

武田 に勉強なされた。 それは、その通りなんですがね、 何回もくり返されて大蔵経を読まれて、悩んで居られた方ですね。 ただ、 法然その人に則してみると、 の通 り非常

は藤 そう、新仏教と旧仏教の対決は大原問答です。あの対決は、大原問答でしたかね。

左豪券木完です。

大原の何といいましたか。

もし、そうだったら勝てなかったと思うんですよ。そうじゃなくて、相手方の学僧も同 ようとか、自分が、あいつらに勝ってやろう、とかいう考えではなかったと思うんですね。 然上人の勇気というかな、勇気というのはね、必ずしも自分の一つの宗派をここで確立し 対決なんかより、もっと知的な、日本の根本的な対決だったわけですね。そのときの、 たんじゃないか、 ったろうと思うんですよ。そこへ法然さまが乗り込んでいった、ということは、 同じ人問、 あの時のことを考えてみますとね、ぞくぞく集ってきた、えらい坊さん達は全部敵 そうそう。僕は勝林院へ行ったんですよ。偶然だったんですがね。地勢なんかをみ 自分のまわりに集まって来ている人間と同じ人間と考えて出かけて行かれ と思うんです。 嚴流島

同じわけだから、そのときの、法然上人の精神状態は、相当高いものだったんじゃないか。 法然上人は、人間平等論だからね。人間平等論だから、相手がいくら学識があろうと、

それは、そういう聖道門における完成というか、徹底性があって、しかも妥協ではなくて、 念仏というやさしい道を発見された。そこが何んともいえぬ、えらい人だったんじゃない

法然上人の偉さというのが、ぽけるんじゃないか。それは妥協ということは、絶対にしな なし遂げたわけでしょう。ところが、我々が、やさしい、ということだけ云っちゃうとね かった人だからね。 か、という気がするわけなんですよ。 だから、 かれの場合、一番やさしい方法を発見したというのは、 実は一番困難な仕事を

い道に近づいた事にね。 僕はね、 あの人が、 何故これに考えついたかというと、二つあると思うんですよ。

死の問題ね、 死が平等に与えられているという問題と、それから、 あの当

には、つよく強調されねばならないと思いますね。しかも、 平等ということと、死の平等、この二つの問題と念仏を結び れを確立されるまでの苦労があった。それがしみじみと伝わっ けられたのですね。もっとも人間的ですよ。七百五十年御遠忌 日本国民に一番坊さんとして親しくつき合っているね、おそら てこなくなっちゃうんじゃないか、そういう心配があるんです 遊女や強盗などともつきあっていた。この人間存在の生の

佐藤 法然上人が勝林院にいくというのは、我々の想像以上のものだ それは確かにそうですね。武田さんの仰言っるように、 たいじゅん

武田泰淳

海旭 伯父は、 随筆家の武田百合子、娘は写真家の武田花。 は水産生物学者・東大教授の大島泰雄。 媒花」、『ひかりごけ』「富士」「快楽」など。兄 1912年(明治45年)2月12日-1976年 (昭和51年)10月5日第 主な作品に『司馬遷』「蝮のすゑ」、『風 僧侶・仏教学者・社会事業家の渡辺 一次戦後派作家として

ね。

現在

大本山

光明寺法主

平成十四年

同定年退職

主要著書 法然上人と浄土宗』(みち書房 仏教とその流れ」(浄土宗出版室)

佐藤 仁戸田 いいところだと思いますね。吉川さんの新平家物語も、あそこがよく書かれてあるしね。 ろうと思うね。 あの室の遊女のところは、さっき仁戸田先生も仰言ったけれども、 感動しますね。 あの時も、流罪はかえって恩寵だといわれている。 それから、

新平家としては、仲々おもしろい。 もう一つ、平重衡のところがね。 実際にあったかどうかは問題のことですけれども

四国に流されて行くといったこともあったね。

法然上人を知るには

みやばやし 昭彦 しょうげん (司会)

昭和三十年 平成 昭和五十三年 大正大学講師、 九 年 大正大学大学院修士課程修了 長野県に生まれる 同人間学部長 大正大学仏教学部教授 同助教授を経て

13

正光寺

赤羽岩淵

守院紀行

文/**真山剛** 撮影/タカオカ邦彦



修復された山門。左右の柱には大観音 正光寺と彫られている。この山門手前には水路が流れていた

各種伽藍

境内、

墓地のすべてが一

新されたのである。

れてい IE その正

る。 再

平

成

21

年の納骨堂修復を皮切りに、

翌22年には墓 業は

地

光寺

建事

業の最大の法要だが、

すでに再建事

着

々と進

光寺がまさに劇的に生まれ変わっている。この本堂落慶式

築地

塀と事

子務棟

庫裏を含む)

の新築、

山門、

参道

の修復

して平成23年4月には十二支堂改め観音堂の落慶式も勤められるな

画 してきた正光寺だけに、 を本堂とし、 れるのにはほぼ九 れていたことだろうか。 そして参列できなかっ 第29世高橋寿光住 い数年前までは荒れ寺として有名で、 の感慨深さは筆舌に尽くし難いものがある。 本堂落慶式の法要が始まる。 や 以前 がどこだかわ い荒れ寺でまるでお化け屋敷……」などと書かれ、 かに、 近年流行りのブログに、「廃寺ではないはずだが……」、 の本堂が焼失し そして力強い鐘の音が響きわたり、 その観音堂が昭 からない、 十年の月日を待たなければならなかったからだ。 職 たの た檀信徒さんもこの瞬間をどれだけ待ち焦が 弱冠33歳。 その歴史を知る者にはこの新本堂の落慶 岩淵 という状態だったのである。 が 和 54 大正 の古刹正光寺にこうして本堂が建立さ 時は平成24年4月22日。 年に焼失してからも客殿を本堂と 12年の関東大震災。 この式に参列された檀信徒さん、 地元赤羽岩淵を舞台にする漫 しかもこの正光寺 天王山 出淵富院 導師 それこそ入り 以後は観音堂 は IE. 光寺 す



とも広い境内で大樹が数本残され本堂から境内を望む。左右、奥行

ひとり 信 0 再 徒 本堂 涙 建 さん 事 が 流 0 業 3 挨拶に、 にとっ は れるに 鐘 式で取 楼 てこれ 堂 違 檀家総代 0 新築、 り敢えず Vi ほど嬉 な 0 末 L 寺 報告に、 段落を迎えたの V 0 ことは Ė そして住 寺 な 0 Vi 再 0 建 式 職 である。 などまだ続 中 0 謝 0 辞 0 IF. 関 多く 係 光寺 者 が 0 0 檀 嬉

歴史の 内、 ともに岩槻 ら交通 石 たのだろう」と思った。 せで訪れ 3 人によって現在地に るとのことで紹介していただい 渡民部少輔保親氏を開基とし荒川沿いに西光寺として建立された。 0 さて、正光寺の創建は鎌倉時代で、 後衰退、 かし 墓 ある、 地 の要衝で、 た時に、 0 IF. 街 正光寺の 全体整備をそれこそ一 光寺は境内全域 本堂建立だけでも大事 道 そしてちょっと筋 慶 長 7 0 江 旅 これだけの普請をどうしてこの 移 ある岩淵町 人 戸 1 6 P 四 転、 後日の 参勤交代 宿に次ぐ宿 0 重 0) 2 好 盛り土を含め 年 0 たので、 取材で再建事業に 0 気に行っ 実は 法号から 業 0) 12 小 武 本 で、 0 净土宗第 田切 1: あ 通 再建 が h 0 住 0 てい た地 行 た 赤 IE 将監重好氏と真譽龍湛上 職 き来 荒 町 羽 光寺と改め 0 は 川を挟 命を な 近 秘密は後述しよう。 る。 盤 祖 辺 L 0 は 整 良忠上人を開 若 7 6 0 良 備 縮 最 き協 地 N あ V 初 か 80 Vi た古 た。 だ川 る。 域 住 る 6 0 力者 と言 職 では最 打 伽 刹 K ま ち 宿 が 0 合 わ 山 徳 3 n か V わ

> 文 3. 上 2 3. 正光寺前の現北本通はかつての岩槻街道で、 その名残の石碑が残っている

東京23区内に唯一残っている小山 酒造。岩淵には秩父の伏流水が流れ ていて美味しい酒造りができるとい う。正光寺の檀家総代さんだ

三代将軍

家光

0

頃

0

検地では

岩淵

町と記された御

領

地



町 境内 歴史 する き地 れ 荒 当 平 村 薩 0 は h V んと8年にも だり 名存 建 てい う地名を脈 初 成 淵 竜 Ш か 13 赤 全 岩 は が 0 に 沿 0 0 頭 0 \mathbf{H} た。 年に埼丁 聳 て 観 は 体 岩 駅名は岩 īE. 続 歴史を地 端 淵 羽 Vi だけに たもも 音像も 池 淵 光寺 え 0 から 運 村 宿 は 金 動を行 0 7 街 が か 現 という地名 赤 0 道 残 持 上 羽 か 0 在 々と受け継い 玉高速鉄道が通り赤羽岩淵駅という名で新設されたが、 わたって町名保存運動を行ってい 赤 含め つってい 淵 れちであ 根 る。 7 元 羽 んざしや指輪を鋳潰 で、 側 は 水にちなん から 民 0 町 V F 根 村と記され Ш 駅だ は誇 ·駒込村· 岩 湿 村、 第二 門前に世 淵 の参道正 IE て、 地帯で、 0 昭 0 由 和 辺 光寺は観音菩薩像で有名な寺なのであ 0 りに思い、 た八幡神社 ŋ 六世 竜頭 た。 37 など十 条村 だもので、 来にはい できたの 年 小 0 継 信者 面に 明 石 大谷栄純 観音像が祀られている。そして、 本堂奥のまだ盛り土をしていない空 からも岩淵町の 橋と彫られた石碑が残るだけだが 治 豊 Ш 九 は 島 が岩淵の 傳 < 明治時代、 0 して観音さまの か 0 高さ10 正光寺の 5 村 大正、 村 通 0 石碑に彫られている。 かの 寄進され からなってい 院領だっ 住 職 中 单 メー 説 昭和、 住人たちなのであ が 0 る。 村、 発 名前を残すために 山門前にも水路 があるが 大正時代にそれぞれ トル た。 た古 願 この町名存続 眉 平成と岩淵町と 王子村、 0 そし 間 銅 明 世 治 0 銭 こう 白 継 て岩 を V ず 滝 毫 + 観 埋 また、 る h る。 野 80



奥に残る池だ、その名残が境内はかつての沼地で、その名残が境内はかつての沼地で、その名残が境内

前立 n 7 昭 るなど、 祀 が 和 VA 観 # ちとして た 時 0 て先代の 音 淵 7 IE. 代 岩淵 観 翁 あ 0 写真 薩 住 る 卷 像 臘 高 0 像 0) 頭 また、 を が 橋 が 庶 力 建 建 写っ ラー 民 īE 代 立 立 信 純 行 前 先に 基作 T 仰 L L 住 0 7 7 職 ラビ 0 7 住 Vi V V 紹 る御 3 はそのミニチ と伝えられる源頼朝公守り本尊で、 るの る。 介し > が T ボ 建立 堂 た竜 である が観音堂で、 ルとも 正 時 光寺の したのがこの大観音菩薩像 代を追って写真を掲載 頭 観 1 いえる大観音像だ。 音 ア像を造 像は 代 この観音堂に祀ら 0 歷 先 N n 代である 住職がそ 新本堂脇陣 この n 観

0 た観 光寺 な 2 音 0 たことが 大観 堂 修復さ 音 あ 菩 る。 薩 像 n 昭 安置され のもととなる正 和 54 年、 てい 先代住 るが 観 職 音 その 像は 0 時 だ。 観 昨 音 年 落慶 像 が 焼失 式 で執 n

十王寺は現在、正光寺住職が兼務す る寺となっている。山門脇の石柱に は閻魔堂と彫られている

ともあ

0

たが

N 内 行

偏

屈

6

独

身を

通 直 0 は 0

たと

3

先代

it

檀

信 0

徒

か

それに 本堂とし

は

境 7

0 Vi

部

から

終

戦

後

0 伽

計 藍 P

闽 0

道

路 興

12

か

か

7

Vi

た な 殿 火

伽

藍をはじ

め寺宝

一類を失

2 が か わ 音

法事 た。

·彼岸

と十

要 を

は

続

H

たも た先代

0

再

は 夜法

1

17 客 出 で

0

T

観

音

像

は

住

職

が

命

けで守

0

思

Vi

\$

か

17

V

れ

てい

たとい

う。

本尊と正

光寺の 光寺 0

寺宝

中 頃

0

寺宝

あ

て火事に

な

0

たと

V

n 堂

て 0

V て、

IF. 今

は

0 1

は

す が

で

业

本堂とし

てい

た観

下

うか

4

V

ス

焚

き火



正光寺の末寺だった十王寺に残る閣 魔様。独特の色合いで美しい光を放 つ閻魔像だ



前後にはまさに改めて勉強し直した仏教、

浄土宗の教えを自分の

リュームアップした『正光寺十王寺通信』として受け継ぎ、

建計画を詳しく檀信徒に伝えることから始めた。

職は先代がはがき通信として発行していた寺報を、

A 5版8

葉で綴っている。その紙面からも伝わってくる真面目で実直な人

寺の行事、

再

え、その3年後の平成20年6月に入院、2週間後に遷化された。 そ荒れ果てていく寺の再建にそれなりの資金がいることをふまえて まま、 先代は逆にその重圧からか、 くしては上手くいく訳がなく、先々代である父が地元の顔 であろう。 少々近寄り難い人物で、そのことを先代住職自身もわかってい い先代は弟の二男である現住職に正光寺の法灯を継いで欲しいと伝 いて、再建のための十分な資金は残していた。そして、子供のいな 想いがあったに違いないが、それを知る術はない。 檀信 徒との距 には多くの人の力、 離が縮まらなかった。もちろん、 古刹の住職としての権威を振り上 とりわけ寺では檀信 ただ、 先代には先代 徒 役だっ 0) それこ 力な げ た

士課程を終え博士課程の1年目に先代が遷化し、若くして正光寺第 正大学の今度は大学院へ入学して仏教を再び学び始めた。そして修 るならばもっと勉強しなければと、すでに4年前に卒業していた大 29世住職となったのである。 先代の意志を受け法灯を継ぐことを決意した現住職は、 住職とな



の中で墓地も綺麗に整備された光寺歴代住職の墓。今回の再建事

自 歴史を大切にする土地柄である。 元岩淵に満ち溢 柄にまず総代さんや地 明 0 もとで一日も早く荒れ果てた名刹を再建したいという思い 理で、 再建は急ピッチで進む。 れる。 岩淵町という町名を明治時代から守り続 元の名士が応援し始める。 古刹復興に地元が一 そして、 丸となるの 0) 新 17 が

境界線 くの この小澤さん、 和21年制定の計 h 所の代表を務める小澤仁史さんが再建事業の舵を取ることになる。 小澤さんも先代と同じ年に他界、 ると聞きに来た名士で、 4 1 援していた小澤愛明さんだった。 K 年 0 が再建にあたっての問題を次々とクリアしていく。 中でも正光寺を応援したのが、 けば、 有名なビルの建設に携わってきている建設の 0年後にも立 0 問題 繰り返しになるが、盛り土、 庫 画から本堂の落慶までを迎えているのである。すごいスピ それまでに残っていた建物は客殿として先々代住職が文 裏、 岩淵ならではの水害の問題。 元藤田工業の社員で、 観音堂、 画道路 派な伽藍であり続けることを目標にして、 の問題、 客殿、 地元の不動産屋の三 本堂の改修、 外柵がなくはっきりしていなか 息子さんであり東京地所設計研 先代が亡くなってから新住 北区役所の役人が岩淵のこととな 築地塀 資材調達の仕事をはじめ、 それらを解決 整備、 代目だった。 庭園、 プロ。 新築である。 墓地、 境内を通る昭 の小澤さ た上 わずか 職を支 2

聞



が残っているが、ここにはまず鐘楼本堂に向かって左手にはまだ空き地

なく見えるが、

いきたいです」。

や節分など地元に密着した行事の復活や、

仏教を学べる所にも

いいただいた方々のおかげです。これからは正光寺名物の植

再建事業は本当に先代住職や檀信

徒

の皆さん、

目よりもずっとしっかりしているということだ。

ルポライター

ですよ」とのこと。落慶式で抱負に向かって踏み出した一歩も見た

再建でタッグを組んだ小澤さんによると

最後にこう抱負を語ってくれた住職、

細身で頼

n

芯は強

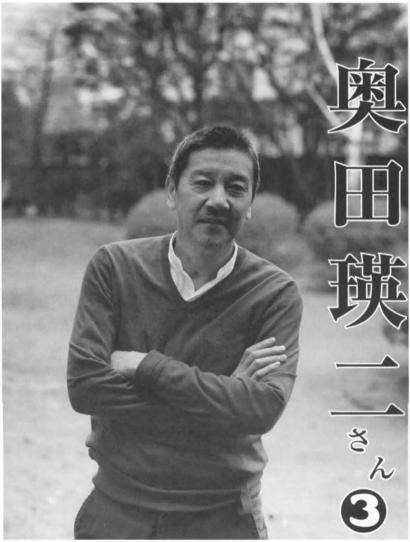
京区 請や許 解体 から移築してきた大正時代の料亭の建物だけだったというか 可 に時間はかからなかったにしても建築には工事以外に 木材の調達など何かと時間がかかることが多い

る 院建築の経験豊富なアドバイザーもいると聞き、 ちにする檀信徒に囲まれて、 を先代が残し、 の総工費を聞いた。もちろん少ない額ではなかった。 いきとどい までオールキャストのチームが控えているからだという。 それを小澤さんに聞いてみた。答えは簡潔明瞭だった。 こうでなければ出来ないはずだ。 経理士などなど、 七人の侍がいるそうだ。 てい る理 そこに若く実直な新住職が就任 由 事前の もわかった。 地元の建築のプロが 認可から図面、 級建築士、 最後に小澤さんに再建事業全体 当初の 測量士、 疑問 工事、 は氷解 名刹 フルサポ 細部にも気配りの そして収支計算 弁護士、 が、 0 再 小澤さん 1 建を心待 その多く 加えて寺 1



院の再建が課題だという弱冠33歳、当面は鐘楼の建立と十王記れからの夢を語る高橋住職。まだ

関 容子人



撮影/タカオカ邦彦

老人なんだけど、 故 僕としては映画 かしてません、 があって 役者になるんだろうなと思って見てると、 は僕と同 決めちゃうんだ、 あるからここには入れない、 のは道づれになった緒形拳さん扮する松太郎 も足せないんだ、 っと素直になれよ、 ティティがゼロだから、 帰国子女というのは日本人としてのアイデン するんですか? みましたけど、この少年はなんで拳銃で自殺 ぱり勝気でちょっと斜にかまえてるところ だからね 彼はオーディションで来て、 映 松田 画 長い 優 い年だった優作の子だし、 作の次男 僕は映画でもテレビでも区別なん 散步』 至上主義の役者に育てたいも って言うんでカチンと来た。 って訊くんです。それで、 彼には幼い女の子の連れが 彼が唯一救ってほしかった って説明しながら、 と言われてもゼロには何 で好演 ンで来て、脚本を五回(その兄は松田龍平)。 お前考え方変えても した松田 と自分で勝手に 将来い 翔太は こい W 読 0

半が一過性で消えるものテレビ、と考えてい奥田さんは、半永久的に残るもの映画、大

よね。 ばれて、この人何よ、 こでこれ見よがしの姑息な演技をすると嘘が しないで有弁に役を語っているんですよ。こ えばジェームス・スチュアートが、 アーストフードみたい ろがテレビではあんまりそれがバレない のポケットにヒョイと入れて、 ロヒョロとした長身の異様 力を大画 映画 俳優 言わば化学調 のすごさは、その俳優の肉体表現 0 面に全身 面白 い持ち味が演技らしいことを 収めることが 味 なものなんです 料で味つけしてあるフ ってことになる。 に長い手をスー ただ歩き出 できる。 あのヒョ とこ 0 す ניי

り感化されていた。
か感化されていた。
とただ世間話をしただけだ演(実際は五番目に来た彼で即決。あとの何演(実際は五番目に来た彼で即決。あとの何演(実際は五番目に来た彼で即決。あとの何

奥田さん監督の3作品目となる『長い散歩』。©2006『長い散歩』製作委員会



がやれば一発なのに。 ぎって思わず、 キラキラがなくなりそうになってきた。 さえ 品も用意してあったんです。瀬戸で気に入っ 番の終りで、実は拍手して握手して渡す記念 の子とがドングリを探して拾うところ。 上げると太陽が斜光になり出して木もれ日の よりいいだろうと思ってね。ところが何回 て買った茶碗。これで御飯くえ、 ってもその芝居が僕のほうに来ない。空を見 そのシーンは、 彼の最終日。 お兄ちゃんハイこれ、 バカヤロー何やってんだ、 そのカットが終ったら彼の 林の中でその少年と幼い女 ほらこうやるんだ、 ありがとう、って受 って。花束 俺

で、ドングリをもらうときの素直な表情と、枯れ葉を放るときの虚無の表情のつながりが枯れ葉を放るときの虚無の表情のつながりがたまくいかなかったんです。やって見せたあとはさすがに一発でOK。僕は夢中で怒鳴ったあとにうまくいくと、その倍嬉しいからね。やったね翔太、最高だ! って肩を抱いたら、やったあ! と思いましたね」

奥田さんの舞台初出演は80年の『新・道元の冒険』(井上ひさし)の主役。この道元役の冒険』(井上ひさし)の主役。この道元役の冒険』(井上ひさし)の主役。この道元役の冒険』(井上ひさし)の主役。この道元役の

の創始者で名プロデューサーの本田延三郎さのあとくらい。三十何年も前ですね。五月舎って、『もう頬づえはつかない』やって、そ「『もっとしなやかにもっとしたたかに』や

れは、 っぽりかぶって、麻だから外が透いて見える。 まり言われたんで、 ですけどね。 という話だから、高僧と患者と二役やるわけ くけど、目が覚めるとまた現実の病院に戻る、 で悠久の時間にさかのぼって道元の時代に行 には高僧しか見えないんだよ、 ましたからね。 の後も木村さんにはずいぶんボロカス言われ っと道元。 ったら道元を読ましてくれて、それからはず 読まされた。 でしたけど、 ったら結局 からの話で、 と言われて、何日かしたら今度は 俳優がワアーッといて、その 泣いてんだけどね。 って言った (笑)。 精神病院の入院患者が、眠ると夢の中 つまり試されてたわけですよ。 オー 翌日はまた違う脇役。 舞台は初めてのことだし、 オーディショ キミには高僧が見えない 演出は地人会の木村光 ディションみたいなも 稽古衣裳の墨染の衣をす 木村さんが、 わっからないんだよ ンと思わ って。まあこ 日は脇役を 一週間 な のだっ んだ さん キミ

だよね(笑)」でうまくするんだけど、残酷だよね、人非人でうまくするんだけど、残酷だよね、人非人したよ。演出家というのは、役者を追い込んンってうなずいて、それからはうまく行きま

以上、 甲斐のある役のオファーがあったら、二つ返 カー・ワイルド)でヘロデというすごく演じ それで今年、 ち』で僕は初めて舞台で褒められたんですよ。 的にもすごい大変なんで、これまで四年に一 よ (笑)。去年、パルコ劇場の 本くらいのペースだった。ところが『幽霊た て出てるんだけど、舞台って肉体的にも精神 柔和な感じで真綿で首しめるみたいにジワジ で白井(晃)さんに追い込まれたけど、 あれはあれでいいと思った。僕も俳優である ワ追い込む(笑)。しかしあの追い込み方は やるときは、追い込んだりしないのだろうか。 「はい、 奥田さんが舞台の演出をしたり映画監 舞台もやらなければという思いがあっ 追い込みます。超人非人になります 新国立劇場の『サロメ』(オス 『幽霊たち』 督を

き寄せられていた。

を察しがつき、難解な芝居がかなり身近に引き察しがつき、難解な芝居がかなり身近に引きない。 東田さんが舞台で評価された『幽霊たち』 とホワイトの二役だった。探偵のブルーに、 とホワイトの二役だった。探偵のブルーに、 とホワイトの二役だった。探偵のブルーに、 とホワイトの二役だった。探偵のブルーに、 で察しがであるらしいことは、奥 事で引き受けて(笑)、今、初日のことを考

実の町が見えて、って言うんで、俺、昔からよ、最後に舞台の後ろがパァーッとあいて現幹線が一緒だった。うちの芝居面白いんですね。秋田の十文字映画祭で会って、帰りの新ね。秋田の十文字映画祭で会って、帰りの新ね。秋田の十文字映画祭で会って、帰りの新な、最後に舞台の後ろがパァーッとあいて現とこの芝居とは、ずいぶん趣きが異なる。

ラは、 右 場でハムレットなんだけど、もうできな たら、 までやり通しましたからね がブラブラになったのをテーピングだけで楽 しかもゲネプロの日に左足の靭帯切って、 あのときは二十五日間 トやればいいじゃないですか、 いやできますよ、 日間くらいしか体力的 言われて らあるパーティーでキムスジンに偶然出 アングラに憧れてたんだよなあ、 衛門はハムレットですよ、 是非観に来てくださいよ、 うちへ出ませんか? 五臓六腑フル回転の芝居でせいぜい十 (笑)、 出たわけです。 今度やる『四谷怪談』の伊 にもたないんだけど、 後楽園のテントで、 うちでハムレッ 俺の夢は日 なんてうまく って。それ 普通アング って言った いね 生劇 か

とすれば片足を引いてでもかえって物語に厚指物師の伊策。だから大工のころ足を傷めた「江戸を昭和初期に置きかえてて、僕の役は「ヒルな二枚目、ということか……。

終ってんのに、とお客さんは思ったらしいでもまだ足を引きずってたから、もう芝居はみが出てよかったんだけど、カーテンコール

きに、 描いて (笑)、 めなさいよ て電話をかけ始めたら、 の知り合いだから紹介するよ、 にあった絵をじっと眺めてね。 んだけど、こういう絵が好きだなぁ、 来て、今度僕サンデー毎日に一年間連載する 木賞をもらったころ (84年)、うちへ遊びに したね。ずっとたって、 もよかった。でも、上京してまず失恋したと かりだが、このほかに画家としての顔もある。 絵は、 多岐にわたる奥田さんの活動の場に驚くば 俳優になろうと思ってたんで別にどうで その子の面影を悪魔主義的 小学校五年で文部大臣賞もらったけ この人の絵なんです(笑)。そ 自分を納得させたりはしてま 連城三紀彦さんが直 女房が、あなたおや あ、 もしもし、 に細密画で そう、 って壁



画家の一面も持つ奥田さん の作品集の中から「暮艶II (2000)」(上)。(下)は染 付する奥田さんとその作品 「大皿」(左)



大田で『花堕ちる』という、サスペンスだけどれで『花堕ちる』という、サスペンスだけどれで『金曜日の妻たち』や『男女七人夏物語』のころで、締切の前日は徹夜で描いて早朝撮影所へ行ってました。描いてると長女のモモ子が起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。モーちが起きてきて、まだ二、三歳ですよ。

「もともとテレビドラマで、若くして癌で死んでゆく絵本作家の遺作、として描いたんだけど、オファーが来て出版されたらヒットしちゃって11刷になって、その傾きかけてた出版社が持ち直したそうなんですよ(笑)」
続けて夫人の安藤和津さんの文で『月うさぎ』(88年)、『さくらうさぎ』(02年) という
総本を出す。

に柄本佑(柄本明さんの長男)と婚約を発表 ころで、僕の四作目『風の外側』で主演して うんですが、僕に言ってきたのは高校卒業の 三歳くらいから女優をめざしてたと本人は言 しましたよ います。今日 う作品で一本立ちしました。次女のサクラは わってきましたけど、『カケラ』 (09年) とい に進んで、その後はずっと僕の監督作品に関 いうのでニューヨーク大学の映画監督コース アートを学んだあと、 なってます。 「モモ子とは今度、絵の二人展をやることに 彼女はロンドン大学でファイン (三月十六日)、 映画監督になりたいと 時間ほど前

様は本当に気前がいい。 (この項おわり)(安藤)家の人々にこんなに才能を授けた神天は二物を与えず、と言うけれど、奥田

宮本亜門演出にヘロデ王役で出演『サロメ』オスカー・ワイルド作 平野啓一郎記5月31日(14)~6月17日(11) 新国立中劇場

彼の国に到り已って、 六神通を得て、 十方界に入って、苦の衆生

善導大師『往生礼讃~発願文~』

守ってみせるぜ、このオレが

世界に赴いては、

彼の阿弥陀仏の極楽浄土に往生したならば、六種の神通力を身に具え、

あらゆる

苦痛に喘ぐ人々に寄り添い救い摂ってあげたい。

まるで音が聞こえてきそうだった。

がきっちり守ってみせるぜ」とでも思わずつぶやいていそうな高揚した心の波 クホーム」という大きなかけ声、「来れるもんなら、来てみやがれ。このオレ 鼓膜を切り裂くような乾いた打球の音、三塁ベースを蹴りホームベースへと の勢いで突っ込んでくるランナーの足音、仲間を鼓舞する「ヘイッ、バッ

んの葬儀で導師を勤めた時だった。 ことを知ったのは、もう少しで春の甲子園、選抜高校野球が始まるころ、Rさ 祭壇に祀ってある、 お檀家のRさんが高校球児であったこと、なかんずくキャッチャーであった

だすれば、五十年は昔の写真だ。大事にしておられたのだろう、少しの黄ばみ らかにスタジオで撮った写真だ。みずから高校の卒業記念としたのであろうか。 影とは別に、式場の入り口には、青春時代の若きRさんの白黒写真が飾られて もない。Rさんの青春がそこにあった。 いた。地元信州Y高校野球部のユニフォーム姿に、プロテクターを身につけ、 かにもホームを守るぞ、といったポーズでキャッチャーミットを構える。明 先年、定年を迎えた頃の写真であるというすまし顔の遺

年前。手術を経て、 信州で家庭を築いた、ごく普通の勤め人だと思っていた。病に冒されたのは二 体育会系の雰囲気を醸し出していたRさんは、信州で生まれ、信州で育ち、 一時、定年後の職も得るほど快復したものの、再発。

浄土の人となった。

居場所が変わるだけだろ。どんと来いだ」 オレは。お寺さんよ。次の試合だって、オレは逃げないぜ。あの世とこの世と た、正々堂々戦いきったスポーツマンの顔だった。そして厳かななかに 勝ち負けじゃないんだよ。真っ正面から闘ったぜ、病とよ。逃げなかったぜ、 枕経、通夜と、旅立ちのお顔をまじまじと見た。そのお顔は全力を出し切っ

とでも言いたげな、静かな気迫が漂っていた。

る能力、遠いところや未来の出来事を知る能力、遠くの音を聞き取る能力、他 人の心を知る能力、どこへでも瞬時に移動できる能力、 ところで極楽に往生すると六つの神通力が具わるという。過去の出来事を知 煩悩を断ち切る能力の

な経験と判断力を以て先の先まで未来を予測し見通すことができるようにな 何千何万、いや数えられないほどの多くの人生を歩んだに等しいほどの豊か ルなんだ。そう、思った。

のだ。 添い、しかも自分のことには執着せず後回しにする、そんな人になれるという り、どんなに遠くの人の喘ぎでも聞き漏らさぬようになり、どんなに遠くの人 の心の痛みであっても我が心の痛みとし、どんなに遠くでもそこに行って寄り

人生が歩めるよう、その人の心を惑わすようなものからブロックする存在とな であれ、誰であれ、 顔写真だが、全体ではお孫さんを胸で抱っこしているカットであるという。 スタジオでの記念写真に飛び入りして撮ったものだそうだ。遺影は肩から上の お孫さんであれ、お子さん方であれ、奥さんであれ、かつてのチームメイト 遺影のRさんは普段着だった。お孫さんの運転手として付き添った七五三。 しっかりと寄り添い見守り存在となる。大切な人が豊かな

ロックしてみせるぜ。みんなの心を守ってみせるよ。見ててくれよな 「お寺さんよ、それがオレの次の試合だぜ。何が来たって逃げやしないで、ブ る。

Rさんがそう言ってるような気がした。そうか、この葬式はRさんのプレイボ 祭壇の遺影と、若き日のキャッチャー姿のRさんの写真に手を合わせながら、

(浄土宗総合研究所 袖山榮輝

石丸晶子

挿画·佐野芳朗

法帰極とたた

法然上人を





四

は諭した。
は論した。
に苦しみのうちに息を引き取った。
とる直前、苦しい息の下から絶え絶えに時国とる直前、苦しい息の下から絶え絶えに時国とる直前、苦しい息の下から絶え絶えに時国と

響はどこかで打ち切らねばならぬのだ」 でのだ。復讐は次の復讐を生むであろう。復 にようと思ってはならぬ。これも前世の宿業 にならな。これも前世の宿業 にならな。これも前世の宿業 に変したが、定明に復讐を に変したが、定明に復讐を に変したが、定明に復讐を に変したが、定明に復讐を に変したが、定明に復讐を に変したが、定明に復讐を

ら、時国はことばをとぎらせた。ようと力の限りに大きく口をあけ、喘ぎながはあはあと途切れそうになる呼吸をつづけ

勢至丸は泣き叫んでいる。くなったりなさってはいやでございます」「父上、父上。生きていてくださいませ。亡

る菩是寺こ庁ナ。そして一刻も早く出家し、汝は復讐を考えるよりも、そなたの叔父のそれには答えず時国は、

取りすがって泣いた。何時果てるとも知らずそういい終わるや時国の息は絶えた。「わあッ」勢至丸は血に染まった父の布団に「かあッ」勢至丸は血に染まった父の布団にいる菩提寺に行け。そして一刻も早く出家しいる菩提寺に行け。

ほどでもあったようにも思われるわずか数分であったようにも半時(一時間)

泣きに泣いた。

す」
「勢至丸様、一端引き上げた定明一味が、ふたたび押しかけて来るにちがいありませぬ。たたび押しかけて来るにちがいありませぬ。

く、ついさっきまであった漆間屋敷のほとん気がつくと、風にあおられて火の回りは早丸は起こされた。

がくすぶっている。どは火災で焼かれて残骸のみとなり、なお火

屋敷の残骸の中を父の遺骸とともに勢至丸の菩提寺へと急いだ。菩提寺は中国山脈の麓の菩提寺へと急いだ。菩提寺は中国山脈の麓の菩提寺へと急いだ。菩提寺は中国山脈の麓の

突然のことに驚愕した叔父の観覚に迎えられた勢至丸は、父の茶毘、墓の造営と心も張り裂ける数日を送り終わると、叔父の下で厳しい天台の修行を受けることになった。「そなたの父の言われた通りだ。復讐は復讐をよぶ、際限がない殺し合いが始まるのだ。
幸かろうがそなた、時国殿のご遺言を守らね
幸かろうがそなた、時国殿のご遺言を守らね
ならぬ。それが最大の供養と言うものだ。

よ

いな

九歳の子どもには閑寂すぎる山深くの寺で、

夕に念仏、そして寺の隅々までの

覚は繰り返し教えた。

掃除をする生活が日常になった勢至丸に、観

朝に題目、

いのだ」
「学問と修行に励んで一刻もはやく解脱の道

五

十日が経ち、二十日、そしていつの間にか

体力…あらゆることに群を抜いているのだ。努力。前に向かって進もうとする意欲、知力、る。 聡明さだけではない。 修行し勉学に励むる。 聡明さだけではない。 修行し勉学に励む半年が過ぎていった。

ったか…)

こんな子は見たことがない。

放してしまうのも惜しい…
一こんな子どもをこのまま山寺に埋もれさせ一こんな子どもをこのまま山寺に埋もれさせするというに等しかった。

を重ねているうちに、四年近い月日が過ぎて になっていった。こう思いああ思いして迷い 日が経つにつれて観覚の迷いはこの一事

(いつまでもこうしていてはならない。 叡山に行かせねばならぬ 勢至

遂にこう決意した観覚は、十三歳になった

勢至丸を呼ぶとこういった。 十五歳説も多いが、すると、以下に記 す持宝房源光の下には数ヶ月しか入室 されなかったことになる。源空という

とに居られたのはもう少し長かったと 考えたほうがいいようにも思い、ここ

法然上人の出家名を考えると源光のも

では十三歳と仮定した。

している。源光に手紙を書くからそれをもっ の持宝房源光がいまだ叡山西塔の北谷で修行 そなた、明日にも叡山に行け。わしとは同学 て叡山に行くがよい」 っわ しが教えることはもう何も無うなった。

> になっていくらもしない、二月のことであっ とで勉学と修行に励むことになった。十三 こうして勢至丸は叡山に行って持宝房のも 歳

分はこの少年を指導する器ではないことを悟 勢至丸を受け入れた源光は、 ほどなく、 自

ねば…) るまい。功徳院の阿闍利様のもとで修行させ おいて優れた才能を腐れさせてしまってはな もいるものではない。この子をわたしの許に (こんなに優秀な修行僧は叡山広しといえど

った。 に住する学僧皇円のもとに送った源光も偉か の限界をわきまえて勢至丸を東塔西谷功徳院 勢至丸を叡山に送った観覚も偉ければ、己

もあった。 る総合的な仏教文化史『扶桑略記』 こうして久安三年(一一四七) 四月、 の著者で 十五

皇円は叡山でも高名な学僧で、日本におけ



院で受戒した。一月、天台座主行玄を戒師として比叡山戒壇成になっていた勢至丸は皇円の室に入り、十

三年間で読破した。
三年間で読破した。

新約聖書がイエスの教えを弟子たちがまとここで経典の話をしておこう。
「法華文句」の三つをさす膨大な経典である。

で、教えを弟子たちが伝えた仏教の聖典のことめたものであるのに対し、経典は釈迦が説いめたものであるのに対し、経典は釈迦が説い

- ①経=経蔵(教義をまとめたもの)
- ③ 論=論蔵(教義を注釈したもの)

を指す。 を指すが広義には仏教典籍全体は「経」のみを指すが広義には仏教典籍全体の三種に大別され、経・律・論を合わせて

修大蔵経』とよばれる漢訳仏典であるが 修大蔵経』とよばれる漢訳仏典であるが 現在日本における仏典の最高峰は『大正新

各巻平均一、〇〇〇ページ。

全一〇〇巻。

大なものである。 ページ数に換算して約十万ページという膨

、。「経」のうち一般にも知られている代表的な「経」のうち一般にも知られている代表的な「経」のうち一般にも知られている代表的な「経」のうち一般にも知られている代表的な「経」のうち一般にも知られている代表的な

お

あの難解でたいぶな天台三大部をわずか三

月よみごしたかい、とい言った。 年で読破してしまったとは何たる秀才か。皇

円は勢至丸を励まして言った。

下をなたは都の貴族の出ではない。しかしその学門をもってすれば天台座主となることも 出来よう。天台には学僧が多いがそなたの学 出来よう。天台には学僧が多いがそなたの学 出来よう。天台には学僧が多いがそなたの学 がらい、今よりもさらに学問を深めて天台

いった。
ころに秘かに、しかし深く、失望が広がってころに秘かに、しかし深く、失望が広がって

(皇円様はわたしが生涯の師として学ぶ御方

る思いでもあったのである。 実を言えば、この思いは皇円の室に入って

関係者をはじめ貴族たちの来客が多く、賑わあり、高名な天台僧である皇円の許には朝廷しかしその深い山に、自身高級貴族の出身で、京都の近くでありながら比叡山の山は深い。

て比叡山銀座通りの様相を呈していた。いがあった。功徳院の草庵の周囲は、時とし

貴族たちが帰った後の後片付けも弟子たちは華やかな雰囲気を残して帰っていく。一時も皇円と話しこむと、やがて貴族たち

やってくる来客とちのもてなしをする……行をうけるだけでなく、都から師僧のもとに

掃除に精を出し、天台止観を初めとする修

の仕事であった……

いえぬみやびな都の余香が、皇円の庵室には中ってくる来客たちのもてなしをする……

最終的には天台座主になるためでもなかった問を身に着けるためでも、都の貴族たちと交わるためでも、そして同朋と競い合った末、わるがのでも、そして同朋と競い合った末、

:

それは…

い復讐心や怨念、苦しみ、怒り、さまざまな父時国の遺言、―いまなお消えやらぬ激し

どこをさまよっているのだ)

妄念から解脱するためであった。

明の 姿が心から離れなかった。 とは遠いところを彷徨っていたのである。定 た父の姿はわすれられぬ苦悶であった。 ったが、明石定明の刀で斬られ、 皇円の指導下にあって、勢至丸の心は解脱 時国の今わの際の遺言を忘れたことはなか 刃の下に血 に染まって息を引き取る父の 血にまみれ

だけが過ぎていくようではならない)。 に来たのではなかった。このまま空しく日 (こんなことをして年月を過ごすために叡山 時

今の自分の心は修行も学問も実際は上の空。 入った者は世間から断ち、 ではないか。であるのに怨念も怒りも融けぬ て一心に修行と学問に励め」と仰せになった わ れらの 祖 師 伝教大師最澄様も、【叡 十二年間は籠山し Ш iz

> を辞して西塔黒谷の叡空上人の室に篭る決意 をした。 それは出家にさらに出家を重ね、 に勢至丸は我が心の救済を求め、 日に日に強まっていくこの思 V の中 隠遁 皇円の許 僧と

なることであった。

を開かれた時にお定めになった、 世俗とは交わりを絶ち、伝教大師様が叡山 我が心として真摯に生きねばならぬ **籠山十** 年

許を辞し、新しい師叡空の庵室黒谷に向かっ そう心に決めると彼は別 れを惜しむ皇円 0

十八歳であった。

(つづく)

第二部第二部日本

・中 に 中 に

月を求めて

等国になるための国策 恤救規則

れみを施すこと」。 障害者、病人、十三歳以下の児童などに一定 うように」とし、それで救済できない貧困者 るべし」、つまり「基本は国民同士で助け合 はというと「済貧恤救は人民相 はというと「済貧恤救は人民相互の情誼に本の窮民救済策のさきがけであり、その内 号として「恤救規則」を布達。 年 本人留学生をみつけた。 たま居酒屋に居合わせた東京帝大法科卒の 果たしてどれほどいただろうか。ましてや恩 おろかこの法律名を読むことができた庶民は ゆ の米代を支給することを定めたものであった。 のみ、すなわち七十歳以上で労働不能な者、 いて訊ねられ答えに窮した渡辺 たのは漢籍 社会民 そもそも「恤救規則」 つきゅう」と読み、「恤」の意味は「あわ (一八七四) に明治政府は太政官達一六二 主党員から突然日 の素養のある人だけで、 おそらく当時意味 の「恤救」とは 彼に質すと、明治七 本 の救貧制 それが近代日 海旭は、 がわ 度に たま ょ 実

> ぷんではなかったか。 恵をうける困窮者にとっては、ちんぷ 胸中に疑念がわいた海 は法科留学生に h か

2

めになっているのかね…」

ねた。「この法律は本当に困窮細民を救うた

旭

訊

ありませんから」 目にすぎません。それが当該法律の目的 そんな海旭の素朴な疑念に、帝大法科出は ほどに悪くなっていくという印象があ 状況がよくなるどころか、むしろ年を重ねる はずもなかったが、 まだ二歳で、法律の意味も効果も理解できる かにも怜悧な官僚らしく事務的な答えを返し 恤救規則」が施行された明治 「おっしゃるとおり、困窮者救済はお題 幼心にも周辺の困窮者 七年、 海 った。 では 旭 は

出 りで返した。 のか?」と目を三角にして驚く海 なに? だったら本来の目的はどこにある 官僚は初心な子どもを教え論すような口 旭に、 帝大

いまストラスブルクでは救貧方式の見直 等国としての体裁を整えるためですよ」

はないか」
れば、日本もそれを見習ったほうがいいのでをしているようだが、一等国をめざすのであ

強兵 けの 委員」〈現在の「民生委員」の前身〉である 給救貧委員」を範として制度化され ツの救貧制度を学んで導入したのは、は がこれを真似ることはなかった。 ツとして高く評価されるようになるが、 続出。さらにストラスブルクが改善をした らストラスブルク方式に切り換える自治体が はできるだけやらない」とうたっているのです」 救は人民相 伸べる余裕などありません。だから『済貧 ら真似るの 救貧委員」は後のソーシャルワーカーの とんでもな (なお、ドイツではエルバーフェルト方式か の大正年間、 . 形だけでいいのです。 殖産興業が最優先。貧窮者に手を差し は無理ですよ。 互の情誼によるべし』、つまり『 い。エルバーフェ エルバ ーフェルト方式の いま我が国 要は体裁 ルト方式です 日本がドイ る一方面 は富 見せ掛 H るか ル 木

日本では宗教が出番?公的教貧制度が脆弱な

本 撤回させて一等国 のか。これでは をした。「日本はそれでも近代国家といえる 四人全員が一様にあきれ返って、口々に忠告 た社会主義者と無神論者と新旧キリスト者の ないようだ。なさけないことだ」 ているエルバーフェルト制度までもいってい ままを語って、 のまま説明したものかどうか迷った末に、ジ ョッキの残りのビールを干してから、ありの ここにいたって、二派に分かれ わ の教質 夢だぞ」 H が日 本 人 本は、 制 同 1: 度の説明を待つドイツ人たちにそ 0 最後に感想をつけくわえた。 いまドイツで見直そうとされ 三等国。 やりとりを終えた海 の仲間入りすることなど夢 列強に 不平等条約を て静な 旭 って は、

沈する海旭を気の毒と感じたのか、社会民主め息をついて、次の盃へ手をかけた。意気消いやはや面目ない」とつぶやくと、深いた時ならぬ集中砲火に一瞬たじろいだ海旭は、

お

ぬ

しの

議論は分かるが、

問題を複雑

党員 H はずもないし、 の学僧が一 本という国家だ、 P が救 お V ぬ 国の社会政策の責を一身に負える の手を差し伸べた。 しが謝ることはなかろう。 負う必要もない。 それを舵取りしている為 負うべきは 一介

と自由思想団が水をさした。 違う?」と社会民主党員が怪訝な顔をし いや、それは少々違うのではないのか

た。

社会的前進だ きった。これは、 ではなく国や自治 してきたように、 団がつづけた。「わがドイツでは先程 「宗教者にも責任があるだろう」と自由思想 貧困の主たる救済者は 世界に誇ってよい 体であるという方向 大いなる へ舵を 説 教 明

党員 階級 が 「おやおや仲間 顔を見合わせ V や が口 に対する懐柔策という側面ももっている」 そうばかりとはいえぬ」 を尖らせ 割れ た。 た。 か ね 台頭する とキリスト者二人 わが労働者 と社会民

> 思想 助を充実させる方向へともっていくべきでは とをやって、その上で日 もって目をつむり、 いつくのに熱心なあまりのことだと、 救済に熱心でないのは、 ように宗教の出番ではないか。日本が困窮者 教が主役かもしれ べの日本はそれ以前 があるが、ここでの問題は、 「なるほどわがドイツの の新しいビールの盃を「論敵」に手渡した。 るだけだから、その話は後にしよう」と自 か J つまりそんな状 は言ってテーブルに届けられたばか x2 まずは宗教がやるべきこ 況 0 状態に かつての の日本にあっては、 救貧対策には明と暗 本という国に公的 われら西欧諸国 そもそもワタナ あるということ わがドイ 憐れ に追 ッの 憫 n

これ するとは宗旨替えかね。でも、 プロテスタントが身を乗り出 は とキリスト者の片割れは皮肉を言って したり。 顔を自 いま日本では、 由思想団 無神論者が宗教 から 海旭 貧しき人々はど その提言やよ の役割 した。「ほう、 へと向 に期 け た。 待

黙ってみているだけ うなってい 日本の 宗教家たちはどうし るのだ。 な 放っておかれるままなの 0 か ているのか。

タントが突っ込んできた。 活動をそれなりにしているのか」とプロテス もそれなりにやっては それなりに、 なんとも歯切れがわるかった。 や黙ってみているわけではない。 か。では、 いる」と海旭 仏教はどんな救貧 は応 宗教者 じた

いる とも早くから、そしてもっとも熱心にやって えた。「いや残念ながら、 ほう、キリスト教徒がか。それは 矛先を向けられて海旭は口 キリスト者がも ごもりながら応 具体的に 0

0)

関心を示して、口々に海旭に話の先を促した。 はどんな…」と二人のキリスト者がにわかに

日 本 0 救貧活動 0 先 駆 は キリスト者

で紹介しはじめた。 お 海 H 旭 は るキリスト者の救貧活動をかい できるかぎり客観 まずは、 を心 明治六年 が H て、 つまん H 本

> 救済にあたったことを紹 石井十次が地元の岡山で千人を超える孤児の 進めた。そして岡山医学校の医学生であった わかに目覚ましくなる明治二十年代へと話を 地で孤児救済や救ライ、廃娼などの活 ソードから語り起こし、 による慈善活 孤児が千人を超えるとは尋常 キリスト者は顔を見合わせて声を上げた。 一十八年間で数万人もの治療にあたったエピ でもあ にようやく禁を解かれたキリスト教 0 たへ 動の嚆矢、 ボンが施 東京をは 療 プロテスタントで 介したところ、 所をもうけ ではな じめ 全国 動がに て、 二人

H

新聞 られた明治七年に 女児には、「苦界」への身売りという悲劇が 0 救済にも熱心で、 廃娼運動を熱心に進めてきたことから 待ち受けていた。 年間 ちなみに明治八年に刊行された 数もさることながら孤児となった多くの によると、前述の「恤救規則」 捨子数は三千にも上ると報告され H これによりキリスト者の社 実施された調 本のキリスト者はかね 査では 准官 がつく 孤児 K 教会 内

海

旭は飲みさしのビールを干すと、

態勢を

会的 派 か思い悩んでいるところへ、カトリック刷新 海旭としてはこのあたりをどう説明したもの 遅 が賛嘆の声を上 度に寛容であったため、 n 評 をとる 価も高まった。 因となったともい げた。 V っぽう仏教徒 これがキリスト教 われるが、 は 公娼

いか」

今度 済孤児は四、 援金を集めて活動を開始。 郎など各界の著名人を賛同者に加え、広く義 岡鉄太郎、三遊亭円朝、渋沢栄 をして「福田会」という救貧団 しかし、仏教各宗派も遅ればせながら連 は社会民主党員から横槍が入った。 そう海旭 五十とそれなりに頑張っている は補足しようとしたところ 支援者は八百、 体を設 一、福地 源 Ш 携

ないか」 無為無策の尻拭いをしてやっているだけではだ。考え違いもたいがいにしてほしい。国の「なにが日本のキリスト教徒もなかなかやる、

たカトリック刷新派から遮られた。立て直して仏教による教貧活動を紹介するべ立て直して仏教による教貧活動を紹介するべ

のかね」

3

ものの葬式にお 半は仏教徒といっていいだろう」とあっ に入ってからは廃仏毀釈で仏教離れがおきた 徒として登録され管理されていたこと、 答えるにとどめた。 してもらえそうになかったからだ。 であることなどを説明しても、とうてい理解 人は地域の寺の檀家として、すべからく仏教 海旭はしばらく考えてから、「 いては大半の日本人は仏教徒 江戸時代にお V H ては 本 人 明治 さり H 0 大 本

は目を輝かせた。「日本人が兜をかぶって干漬活動をしているのか」とカトリック刷新派が重ねて訊ねた。「ほう、たった一パーセントでこれほどの救ーセントいるかいないかだろう」ーセントいるかいないかだろう」「では日本にキリスト教徒はどれぐらいいる「では日本にキリスト教徒はどれぐらいいる

は して救貧活動を展開したのは、 リシタン禁止 戈をかわしてい はちょっと歴史理解が違う。明治になってキ た。そこでささやかに一矢を報い しても理解は得られないだろうと海旭は思っ て一知半解な知識にもとづく牽強付会をただ るのだろう。これまた日本の歴史をひもとい としたイエズス会の宣教師のことをいってい なく、 師たちが営々と活動してきたおかげだろう」 おそらくフランシスコ・ザビエルをはじめ もっぱらプロテスタントだ」 令は廃されたが、 た時 代から、わが大先輩 カトリックで 布教の一環と た。「それ

寄付やボランティアをつのり、それを貧窮者 に配分提供するという活動は、 瞬で、すぐさま反撃にでた。「布教をかねて、 者が二千年にわたって実践してきた伝統 カトリック刷新派はたじろいだが、それは (アート)だ。新教はそれを継承したにす われらキリス 0

が旧教の真似 明らかに悔 し紛れの言説ではあったが、そ か継承かは別として、その救

n

キリスト者から積極果敢に学ぶべきであった。 ようとしたところを、またまた中断させられ いや、いまからでも遅くない、と内省を深め て許してきたところがあった。 らすると、 たことは間違いない。それゆえに、仏教徒 今度はプロテスタントからだった。 動 は H それをキリスト者の専売特許とし 本の仏教にはないスタイル むしろ仏教は であ

もあった。そしていまだ結論が出ていない え仏教の革新を想って集った新仏教徒同志会 題でもあった。 の仲間たちともしばしば語り合ったテーマで 鋭く痛い問 なぜ救貧活動では 人たちに理解してもらえるだろうか、海旭は スト者の後塵を拝しているのか」 これは海旭にとって深奥につきささる実に 日本では国民のほとんどが仏教徒なのに、 沈思した。 いかけだった。留学前、宗派を超 V 0 わずかーパーセントのキリ たいどう話せば異教の 友

(この項つづく)

90かい目をあちゃんはまっかまちゃらいろう

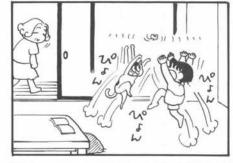
















福島民報・宮崎日々新聞 かまちよしろう先生作新聞四コマ漫画『ゴンちゃん』が各地方新聞に掲載されています。 新日本海新聞・山形新聞・長崎新聞・岐阜新聞、 以上朝刊。 中国新聞 (静岡新聞 ・山梨日々新聞・北日本新聞 神戸新聞、 以上夕刊

浄土誌上句会

聞



我

(2)我食べる故に我有り桜餅

を開けてぱくりとやるばかりである。と開けてぱくりとやるばかりである。大口のほうには観念論もへったくれもない。大口思う故に我あり(コギト・エルゴ・スム)」思う故に我あり(コギト・エルゴ・スム)」が出げる

〈佳作〉採れたての我孫子の甘いほうれん草

スキー場下山に我が子の肩借りて老いてより覚えし我慢寒明ける

斉田 仁

浜口 佳春

石原

新

(量) 恋猫に聞き耳立てていて寝ねず 益田

吞

らしい。それはそれとして、恋猫の声は、真くると、性欲のほうも季節を食み出してくる はの恋といえば春の季語だが、食が足りて

小林 苑を

50

次回兼題 礼 去 自由題

選者=増田河郎子

締切・2012年4月20日 発表・『浄土』2012年6月号 応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名 葉書に俳句(何句でも可)と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先 〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館内 月刊「浄土」誌上句会係

自由題

異聞 涅槃図の噎び声聞く朝の寺 あ り絵踏の寺の秘仏堂

らい付き合いである。

夜中に始まったらたまったものではない。

日の移る薮の奥より初音聞

佐藤 雅子

内藤 善也 隼人

井村

護ねんねこや 島

増田

信子

ねこといえばもう年寄りだろう。 明らかにおんぶである。 おんぶ」という語は当たらないが、 この頃は誰もが子供を前にしてい 島のことだが、 今はもう懐 るから、 これは ね

日向ぼこだんだん子供になる男 残雪や空き地となりし友の家

かしい子守唄が聞こえてきそうである。

採石の岩肌見せて山眠る

柏 木

戸田 子青

保

東

だったことでしょう。

そ休みなく、

駆

け

抜け

が終わりました。

四 0

月 八〇〇年

0

ようやく増

上寺

気持ちです

私も七座随喜しましたが、

雑誌 [浄土] 特別、維持、賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺) 巌谷勝正(目黒・祐天寺) 魚尾孝久(三島・願成寺) 大江田博導(仙台・西方寺) 北山大超(焼津・光心寺) 加藤亮哉(五反田・専修寺) 熊谷靖彦(佐賀・本應寺) 粂原恒久(川越・蓮馨寺) 佐藤孝雄(鎌倉・高徳院) 佐藤成順(品川・願行寺) 佐藤良純(小石川・光圓寺) 東海林良雲(塩釜・雲上寺) 須藤隆仙(函館・称名寺) 高口恭行(大阪・一心寺) 田中光成(町田・養運寺) 中島真成(青山・梅窓院) 中村康雅(清水・実相寺) 中村瑞貴(仙台・愚鈍院) 野上智徳(静岡・宝台院) 藤田得三(鴻巣・勝願寺) 堀田卓文(静岡・華陽院) 本多義敬(両国・回向院) 真野龍海(大本山清浄華院) 博之(網代・教安寺) 水科善隆(長野・寛慶寺) 宫林昭彦(大本山光明寺) 山田和雄(諏訪・貞松院)

でした」と心からの言葉が出る、 まで、スタッフ関係者の皆さんは 本当にお 日から十 た十 ·御忌大法 そん それ 疲 n H 日日 岱 様 間 要 潤 る一方、 を強く致しました。 ました。 いつまで続けられるのだろうかと考え のスター 像 年 のだっただろうと、 を絶する長さで、そのご苦労は 延ばしで行われ これからがまさしく八〇 続けなくてはならないとい トです。 御忌のこうした法要 た大御 驚きと尊崇の念 忌 to 一年

わ H

せて頂きましたが、 まで続けられ 41 ですが参加される方が多く、 、もお念仏を楽しそうにされて行 日 ・も強く感じます。 いると、 間ずっと、 般の方々も五分くら た常念仏に、 朝八時半から夕方四 私たちが 円光大師堂 何 中には お念仏 回 か参加さ でこの十 か 11 をし 若 時 4 61

れがたまっているご様子でし と随喜をしたご上人も多く

た。

 $\mathcal{T}_{\mathbf{i}}$

十年

さすがに疲

座

t

座

要になりました。

度の

大御忌は、

確

かに

思い

出

そう思うと祖山

0

方

Z

0

あ

0

長

さは

発行人

株式会社

テ

1

印刷

成二十

種郵便物認

七十八巻五月号 頒価六百円

平成

Ŧ 白第

四年五月一日 四年四月二十日

大室了晧

した。 こしたいという思いを益々強く思います。 る行為、 時代がどのようになっても、 く念仏であるのです。 お念仏を楽しんでする気持ちを起 拠り所となる行為は変わる事な 人間を支え 長

編集スタッ 編集チー フ

う思

長谷川岱潤

斎藤晃道

青木照憲 佐山哲郎

http://jodo.ne.jp 印刷所 編集人

(敬称略・五十音順)

T | OA-OO | | 東京都港区芝公園四 発行所 AX〇三(三五七八)七〇三六 法然上人鑽仰会 替〇〇一八〇一八一八二八七 話〇三(三五七八)六九四七 七四 明照会館内

村田洋

大変

石丸晶子

法然上人



いしまる あきご

1935年東京都生まれ。国文学者、文芸評論家。東京大学文学部卒、同大学院 人文科学研究所博士課程修了。東京経 済大学名誉教授。著書に『面影びとは 法然一式子内親王伝』(朝日新聞社)、 「歴史に咲いた女たち―源氏の花 平 家の花』(廣済堂出版)、『法然の手紙』 (人文書院)、『お手紙からみる法然さ ま』(浄土宗出版) ほか多数。

★場 東京芝大本山増上寺 慈雲閣1Fホール

6月22日(金)

午後 1:30 開場 午後 2:00 開演(3:30終了予定)

会費 1,000円

当会会員無料

問い合せ先 -法然上人鑽仰会--

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階 電話 03-3578-6947 FAX 03-3578-7036

アイエムが目指す 「寺院ルネッサンス」とは…

日本人の心があぶない! そう感じたとき 寺院と周縁のはざまで活動する私たちアイエムに ひとつの気づきがありました。

「寺院とは地域の人々の"苦"と向き合い "学び・癒し・楽しみ"があり、人々を 元気にしてくれるところでなければ」と。

このような寺院と周縁の間に新しい信頼関係を築く 支援活動が、寺院ルネッサンス活動なのです。

今、アイエムでは寺院から地域・周縁への

各種文化発信行事の開催を 支援致しております。









周縁と寺院を結ぶ

東京都中央区京橋 2-8-1 八重洲中央ビル Tel. 03-3535-5555 Fax. 03-3535-2730

インターネット アイエム

